

備前市事務事業評価シート

(平成21年度事業)

事業の概要			
事業開始年度 平成14年～			
総合計画	大項目	基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり
	中項目	基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり
	小項目	施策	02 文化財の保存と活用
事務事業名 02 旧閑谷学校世界遺産登録推進事業			
			このシート作成に要した時間 2.0 時間

事業の目的	
対象 (誰・何に対して)	旧閑谷学校や世界遺産に興味関心がある人。
目的 (何のために)	旧閑谷学校の建造物とその創学の精神を受け継ぎ、未来の世代へ継承するために世界遺産への登録をめざす。
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	旧閑谷学校世界遺産登録推進委員会が他の民間団体と積極的に協力し、応援活動を盛り上げる。

事業の実績			
細事業名	事業の説明	優先度	目的を達成するため実施した事業
閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務事業	旧閑谷学校の世界遺産登録推進向け、シンポジウムや講座などを開催し、広報活動に務める。		

事業費等		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績	
決算額	直接事業費			10	100	950
	必要人員(人件費)	千円	0.30人	1,969	0.38人	3,027
	事業費			1,979	3,127	4,470
	国庫支出金					
	受益者負担					
	財源	千円				
繰入金						
市債						
その他( )						
一般財源			1,979	3,127	4,470	
受益者負担比率	%		-	-	-	
結果指標名	単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績		
世界遺産シンポジウム参加者数	説明	世界遺産シンポジウム参加者数				
結果指標量	事業				240	
対前年比	%	-	-	-		
活動コスト					4,470,000	
単位当たりコスト	円	#DIV/0!	#DIV/0!		18,625	

事業の成果					
成果指標名	年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度目標値
世界遺産シンポジウム参加者数	目標値(A)	0	0	250	250
	実績値(B)	0	0	240	到達目標値
	達成率(B/A)	#DIV/0!	#DIV/0!	96.00%	300
成果指標設定の考え方・式や説明					
世界遺産について理解を深めてもらい、賛同していただける方を増やす必要があるため、成果指標にした。					

事務事業の評価			
妥当性の評価	市の関与の妥当性の評価	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input checked="" type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	妥当性評価 <A-E> <b>B</b>
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法(派遣・委託含)を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価 <A-E> <b>C</b>
有効性の評価	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の到達目標値は達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない	有効性評価 <A-E> <b>C</b>
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 法定事務・内部管理事務 であり成果は求めにくい <input checked="" type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	

留意事項  
事業の目的やその数値目標を達成するための結果指標

事業の目的、対象、内容等を考えながら妥当性の評価を行って下さい

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい

進行年度(H22年度)の改革改善内容							
状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
説明	平成22年度は、世界遺産登録推進室が設置され、旧閑谷学校の世界遺産登録向け調査・研究・広報活動等が必要となっている。閑谷学校世界遺産登録推進委員会事務と世界遺産登録推進事業とそれぞれ事業の拡充が必要である。						

総合評価	
シンポジウムを開いて240人の参加者を集めるなど、世界遺産登録推進に関する活動の周知については、一定の成果をあげることができた。今後、世界遺産登録に向けて活動を本格化させていくのであればコストの増加は避けられないが、より充実した事業になるように努めなければならない。足利市と水戸市とともに、3市で共同提案書を作成することを目標としてきたが、取り組み方の違いがでてきた。今後活動を続けていく上で、再検討が必要である。	評価区分 <A-E> <b>B</b>

平成23年度の方向性及び取組目標						
方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止・完了
取組目標	文化庁から本気で世界遺産を目指すのであれば、登録後を見据えた組織づくりが必要であると指導を受けた。推進室の職員は、すべての業務と兼務である。世界遺産登録を目指すのであれば専任の職員が必要である。足利市と水戸市とともに、共同提案書を平成23年度に提出することを目標としてきたが、取り組み方に違いがあらわれてきた。世界遺産登録に向けて、これまでの枠組みや方向性について見直しが必要である。					